

ドクガとチャドクガ

絶対に触れてはいけない虫

発生時期												
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
発生				多い								

ガの仲間には、毒の針毛や刺毛を持つ種類があり、ドクガの幼虫がいる樹木に触れたり近づいたりすると接触性の皮膚炎や痛みを引き起こします。

また、幼虫の脱皮したぬけ殻が風に飛ばされ、被害が広がることもあるので、注意が必要です。

生態

ドクガは年1回発生し、幼虫は、サクラ、コナラ、ツツジ等の葉を食べて生長します。また、ドクガは、幼虫のまま落葉の下で集団越冬します。

一方、チャドクガは、年2回発生し、チャ、ツバキ、サザンカの葉を食べ生長します。また、チャドクガは、食害する樹木の枝や葉に卵を生みつけ、卵の状態越冬します。

被害

刺された瞬間は余り痛みませんが、後にかゆみが続き、症状は3～4日目目が最もひどく、全治に10～30日要します。

対策

ドクガ類の成虫には素手で触れたりせず、ぬれた布でおさえます。

幼虫は、発生している植物を枝ごと切り取り、焼却することで駆除します。

応急処置

- 1) 刺された場所をこすらないよう注意し、大量の水で洗い流したり、幅の広い粘着テープ等を軽くあて、毒針毛を取り除きます。
- 2) 皮膚炎の症状があるときは、抗ヒスタミン軟こうを塗ります。なお、重症の場合は、医師の治療を受ける必要があります。



ドクガ幼虫(体長約40mm)

ドクガ成虫(体長約15mm)



チャドクガ成虫(雄)
(体長約20mm)

チャドクガ成虫(雌)
(体長約20mm)



チャドクガ幼虫(体長約30mm)



チャドクガによる皮膚反応

(写真提供：東京都)